

2023.1.27

第 58 回ソーシャルワーク研究会

藤林慶子、堀米史一

ソーシャルワークにおけるリサーチペーパーの書き方のポイント

－論文構成と分析、図表（Table と figure）の作成－

目次

- 資料 1 古谷野亘（2011）よい論文 -量的研究の場合- 介護福祉学 第 18 巻第 2 号 173-181
- 資料 2 堀米史一（2015）学位論文 介護老人福祉施設におけるリスクマネジメントと転倒の発生要因・事故防止策・活動参加の取組みに関する研究

資料 1

古谷野亘 (2011) よい論文 -量的研究の場合- 介護福祉学 第 18 巻第 2 号 173-181 から引用

念のために各部分の意味と書く際の留意点を記すと次のようになる。

(1) **はじめに (introduction)** : 「はじめに」は、その研究 (論文) の意義を明らかにして、その論文がいかにか人類共有の知識の増加に寄与できるものであるかを述べる部分である。研究は、それまでに行われ、発表された他の研究 (先行研究) の成果を踏まえて行われるものであるから、先行研究についての文献考察 (文献レビュー) は、まずこの部分で行われる。先行研究によってなにがどこまで解明され、なにが不明のまま残されているのか、なにが当面の課題であるのか、また仮説と、なぜその仮説が立てられ、検証されるのかを明瞭に述べておかなければならない。

(2) **方法 (method)** : 「方法」は、その研究で用いられた方法や手続きを説明する部分である。調査対象者・被験者の選定と基本属性、変数とその測定・分析方法など、調査であれば調査の実施方法・実施時期など、実験であれば装置や材料、統制のしかたなど、また研究にあたっての倫理的配慮などを明瞭に述べておかなければならない。調査対象者・被験者の性・年齢などの基本属性は、「結果」ではなく、「方法」に記するのが原則である。それは、基本属性の記述が、研究の結果ではなく、研究に用いた material についての記述だからである。

(3) **結果 (results, findings)** : 「結果」は、調査や実験の結果を示す部分である。ここに書くことができるのは、調査や実験の結果、分析結果のみであって、著者の解釈が混じってはいならない。このため「結果」は、論文全体の中心であるにもかかわらず、意外と短いことが多い。ただし、数字の羅列になったり、箇条書きになったりしないように注意しなければならない。

図表を効果的に使って研究結果を簡潔かつ明瞭に示すのが、論文作成のコツである。 図表を用いることができるのは、基本的には「結果」においてのみである。提示した図表については、少なくとも 1 回は本文中で言及しなければならない。」

(4) **考察 (discussion)** : 「考察」は、研究結果についての著者の解釈、先行研究との比較、その研究の限界や残された課題などを論じる部分である。多くの場合、ここでも文献考察が必要になる。その際には、**「はじめに」で取り上げた文献 (の一部) をもう一度取り上げることになる。「考察」において論じることができるのは、あくまでも得られた研究結果に関連する事柄、結果から論理的に導かれる事柄のみであって、著者の見解であれば何を書いてもよいというものではない。**

論文のタイトル

論文のタイトルは他の人が見て内容が推測できるもの、サブタイトルは必要があれば記載する。サブタイトルがタイトルと同じ単語の繰り返しになっている場合や抽象的過ぎる場合は再検討が必要。

著者の氏名、著者の所属先、著者注

ランニングヘッド

完成論文の欄外（ページ上）に印刷される簡略標題

アブストラクト

アブストラクト（抄録・要旨・アブストラクト（abstract））は目的、方法、主な結果を簡潔にまとめたもの（200～800 文字程度）。学会によっては構造化抄録（目的、方法、結果、考察）を採用している場合もある。

キーワード

内容に即したワードを3～5語用いる。

本文

はじめに（introduction）は文献検討ではなく、社会的背景、研究の意義、その分野でこれまでに分かっていること、わかっていないことを明記する。政策、政府関連等機関の調査資料などからも述べる。先行研究もこのような視点のものは取り上げる。また一般的なことは最低限にとどめる。

目的は基本的には短ければ短いほど良い。背景を踏まえて何を明らかにする必要があるか課題を述べる。

方法（method）は、論文を読んで同じ調査をしたいと思った人が再度調査をできるように書く。対象はどのように設定したか（対象）、何を聞いたか（調査内容）、調査内容をどのように分析したか（分析方法）、調査はいつどの程度の期間行ったか（調査期間）、どのような倫理的配慮を行ったか（倫理的配慮）は必ず書く。

結果（results）は分析から導き出された結果のみを記述する。著者の解釈は一切入れない。

考察（discussion）には結果の解釈と、先行研究との結果の比較、臨床への示唆、研究の限界と今後の展望を書く。結果と関係のないことは書かない。

※1 「method」「results」は既に起こってしまい今更変えようのない事実なので「過去形」で書く。

「introduction」「discussion」は「現在形」で書く。

※2 パラグラフライティングの書き方を意識する。（<https://shouronbun.com/paragraph2.html>）

資料2 堀米史一 (2015) 学位論文 「介護老人福祉施設におけるリスクマネジメントと転倒の発生要因・事故防止策・活動参加の取組みに関する研究」の考察から引用

2)作業仮説(1)について

作業仮説(1)の「事故防止策を用いることにより転倒の危険性は低下する」に関しては分析の結果から仮説が実証された。具体的には χ^2 検定を行った結果「転倒の有無」と「事故防止策の有無」の関連性について有意な差が見られ、「事故防止策あり」の利用者の転倒割合は55.7%と「事故防止策なし」の転倒者の割合よりも有意に高かった。これはサービス提供者のアセスメントにより、転倒の危険性が高い利用者に対して事故防止策が用いられているために「事故防止策あり」の利用者の転倒割合が高くなったと推察される。ロジスティック回帰分析の結果においても「事故防止策の有無」に有意差があり、モデルとして抽出され、具体的な事故防止策としては「見守りの強化」「マットの使用」「センサーの使用」「センサーとマットの使用」「センサーとマットの使用と見守りの強化」に有意差がみられた。調整オッズ比は「事故防止策なし」と比べて「見守りの強化」が2.142倍、「マットの使用」が8.623倍、「センサーの使用」が2.726倍、「センサーとマットの使用」が10.649倍、「センサーとマットの使用と見守りの強化」が15.904倍であり、「マットの使用」または「センサーとマットの使用」と「センサーとマットの使用と見守りの強化」のマットが事故防止策として併用されている利用者の調整オッズ比が高いことが示唆された。

3)作業仮説(2)について

作業仮説(2)「認知症利用者の精神的安定を図ることにより転倒の危険性は低下する」に関しては分析の結果から仮説の一部が実証された。「認知症の有無」と「転倒の有無」の関連性については χ^2 検定とロジスティック回帰分析のいずれの結果においても有意な差が見られず、また「認知症高齢者の日常生活自立度」と「転倒の有無」においても同様に有意な差は見られなかった。多くの先行研究において認知症が及ぼす転倒への危険性(平松ら, 1995; 北川ら, 1995; 金村ら, 1999; 沼沢ら, 2001; 宮本ら, 2002; Doorn et al., 2003; 坂本ら, 2004; 河野ら, 2007)が指摘されているが、本調査の結果では認知症とその程度は転倒に影響を及ぼしていないことが示唆された。しかし認知症高齢者の中で「転倒の有無」と「BPSDの有無」の関連性では χ^2 検定において有意な差が見られ、「BPSDあり」の利用者の「転倒あり」の割合が有意に高いことが示された。ロジスティック回帰分析においても「BPSDの有無」がモデルとして抽出され、調整オッズ比は「BPSDなし」の利用者よりも1.666倍転倒の危険性が高くなることが示された。具体的な「BPSD」の行動・心理症状として分析を行った結果「昼夜の逆転がある」と「『家に帰る』等と言いつち落ち着きがない」に関して有意な差が見られ、調整オッズ比は「BPSDなし」の利用者と比べて「昼夜の逆転がある」が5.675倍、「『家に帰る』等と言いつち落ち着きがない」が5.308倍転倒の危険性が高くなるという結果であり、「BPSD」による行動や心理症状が転倒発生に影響を与えていることが実証された。

表と図について

表番号

本文中に掲載されているすべての表（付録や補足資料に含まれていないもの）には、表1、表2、表3のようにアラビア数字で番号をつける。表の詳細な説明が論文内のほかの場所にあるかどうかにかかわらず、各表が本文中で最初に言及された順に番号を付ける。表（Table）という単語と番号を、ボールド体、左詰めで書く（字下げや中央揃えはしない）。付録に掲載されている表は、別の番号設定に従う。

表タイトル

すべての表には、簡潔だが明確で説明的なタイトルをつける。表の基本的な内容は、タイトルから容易に推測できるようにする。表タイトルは、表番号の下にイタリック体のタイトルケース（前置詞冠詞以外の単語の最初の文字を大文字にする）で書き、表番号と表タイトルの間はダブルスペース（1行空き）とする。一般的すぎる、もしくは詳細すぎる表タイトルは避ける。

略語は、表の一般注で定義することもできる。タイトルの要素を明確にするために特定注を使用しないこと。

APA 論文作成マニュアル 第3版 P212 から引用

図番号

本文中に掲載されているすべての図には、図1、図2、図3のようにアラビア数字を用いて番号をつける。図の詳細な説明が論文中のどこにあるかにかかわらず、本文中で最初に言及された順に番号をつける。Figure [図] の文字と番号は、ボールド体、左詰めで記載する（文字下げや中央揃えはしない）。付録に掲載される図には、別の番号をつける。

図タイトル

すべての図に、簡潔かつ明確で説明的なタイトルをつけること。図の基本的な内容はタイトルから容易に推測できなければならない。図タイトルは図番号の下にイタリック体のタイトルケースで書き、図番号とタイトルの間はダブルスペースとする。図タイトルは一般的すぎるものや細かすぎるものは避ける。

APA 論文作成マニュアル 第3版 P238 から引用

因子分析 (SPSS、Amos のデモンストレーション)

因子分析は変数の背後に潜んでいる要因を明らかにする分析 (標準の Excel ソフト単体では難しい)。

石村貞夫著 (2005) SPSS による多変量データ解析の手順 第3版 P212

Amos は、パス解析や共分散構造分析のために開発された統計ソフトです。信じられないことですが、「**Amos を動かすために、予備知識はいらない!**」のです。ともかく、Amos を動かしてみましょう。

今後の分析の可能性

決定木分析 (ディシジョンツリー)

非線形の関係を捉えられる分析で、線形の判別分析よりも高い予測精度が得られることが多い。

SW 研究会第8回公開 Zoom レビュー資料より

比較項目	CHAID	CRT
目的変数	カテゴリ型 連続型	カテゴリ型 連続型
分岐の数	多分岐	2分岐
標準	カイ2乗検定	不純度
欠損値	使用可能	使用可能

ニューラルネットワーク

IBM SPSS Neural Networks 28 マニュアル

IBM SPSS Modeler (動画)

[IBM SPSS Modeler の機械学習・決定木分析](#)

[SPSS Modeler の機械学習・ニューラルネットワーク](#)

倫理的配慮

大学や団体でガイドラインを示している。守るべきこととして研究対象者の尊厳、人権、研究者としての社会的責任。

データ収集の際の侵襲性や危険性

プライバシー

データ等の保管方法

結果の公表

利益相反 等